

さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校第9期大学院会報 10号

会長メッセージ 澄川 ○○

出会い 感動 友情

あつという間の二年間の学生生活でした。私たちが今まで経験したことがないような出来事の連続でしたが、優秀な仲間達の出会いで、苦難の道乗り越えて来ました。私には持っていないものでも、素晴らしい仲間たちのカバーでここまでられました。これからは、事務局からも離れ、協議会、連合会の一員として、積極的に事業の企画立案、運営をいたします。引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

皆さんからのメッセージ **あつという間の二年間 楽しかった 嬉しかった**

1 班

- 新井 ○○「教室で学び、バス旅行で見聞を広めた実りの多い二年間でした。みなさまに感謝」
蔵部 ○○「知識を得る楽しさと、良き出会いのあった有意義な二年間でした」
杉山 ○○「皆様のお陰で楽しく二年間を過ごすことが出来ました。どうぞ又よろしく申し上げます。」
中島 ○○「よき友達との出会い。知識を得る楽しさ。とても有意義な二年間でした」
宮崎 ○○「良き友と明るい未来を信じあい、自分の足で歩きたい」
上林山○○「まだまだ続く岩槻第9期校友会。これからもキョウイクとキョウヨウに励みます。」
関谷 ○○「役員になって会社にいたような忙しさ。苦しみながら楽しんでいます」
増山 ○○「最高の出会いに感謝々。いつ迄も若さを保つ為にもよろしく申し上げます」

2 班

- 荒井 ○○「シニア大学楽しかったです。皆さん、家族に感謝！です」
岡本 ○○「早い2年間でした。今までより皆様にお会いする機会が少なくなりますが、楽しみに出席したいと思えます。」
黒川 ○○「勉強する機会を与えて頂き、2年間充実した日々を送ることが出来ました」
澄川 ○○「あつという間の2年間、とても有意義な2年間でした。皆さんに感謝です」
中山 ○○「たのしい期間でした。ありがとうございます」
森 ○○「働かなくなった頭に刺激を頂いた2年間ありがとうございました」
今井 ○○「特集号を含む通算21回の「会報」は9期2年の歩みの貴重な記録です。有難うございました」
小山 ○○「何もすることがなかった数年。シニア大学で人々と交わり合う事の良さ、本当に良かった」
瀧田 ○○「会報の愛読者の皆様。投稿に講読に心から感謝申し上げます」
中澤 ○○「在学中に培われた皆さんとの絆・友情は、私のハートに焼き付いています」
町田 ○○「9期生皆さんとの出会いは偶然ではなく必然だと思っています」

3 班

- 石塚 ○○「ツレが10期生におりまして、9期会報は素敵な参考書でした。瀧田さん38文字ね。サンキュー」
梶間 ○○「良き友に恵まれ一生の宝。これからも仲間をお願い致します。有難うございました」
小暮 ○○「文化祭で音痴の私が覚えた「麦畑」「川の流れるように」の2曲は私の宝物になりました」

- 高橋 ○○「皆さんに刺激されて、ともすると内へ向きそうになる自分を外へと向かうように努力したいです」
山根 ○○「2年間の思い出は、私の心のアルバムに深く残ることでしょう。感謝・感謝です」
中山 ○○「3班の皆さん。パソコンクラブの皆さん。これからも頑張ろう！今夜も飲むぞ！」
松井 ○○「多くの知り合いが出来、3班の方々とも揃っての昼食も出来、感謝です。ありがとう！」

4 班

- 唐沢 ○○「会報発行、瀧田さんの工夫でお国自慢や班別の原稿により、皆さんの考え方や趣味の一端を知ることが出来て楽しく読ませていただきました。心より感謝いたします」
小林 ○○「外に出て 皆様に会い 喜びを覚えました。これからも宜しくお願いします」
高山 ○○「皆様にお世話になり楽しい2年間でした。ありがとうございました」
濱野 ○○「大切にしたい 人との輪 これからも宜しくお願いします」
横田 ○○「まだまだ元気。これからも皆さんと共にもっと学び楽しみたいです」
江原 ○○「これからも楽しく過ごしましょう。御世話になりました」
坂本 ○○「いろいろな行事に参加して楽しい2年間でした。これからも楽しみたいと思います」
浪江 ○○「アツという間の2年間でした。来期もよろしくお願いします」
蓮見 ○○「これからもチャンス・チャレンジ・チェンジの3Cで行く」
皆川 ○○「大学・大学院あつと言うまの2年間が完結して楽しい授業でした。今後の校友会もよろしく」

5 班

- 岩吉 ○○「学友の皆さんと出会い、2年、学修又は旅行等に参加できたことは、皆様に感謝申し上げます」
木村 ○○「素晴らしい生に恵まれ、とても充実した時間を過ごさせていただき感謝しております。今後ともよろしくお願い致します」
駒宮 ○○「光陰矢のごとし」過ぎてみれば短く感じた2年間。人生の通過点として沢山の収穫に感謝。
田中 ○○「新しい仲間と楽しく懐かしい時間を持てたことに感謝。これからも長く続くことを願っています」
深井 ○○「新しい友と2年間、授業やイベントを共にし、楽しい思い出になりました。感謝申し上げます」
小野 ○○「9期の皆さんともっと話をし、楽しい日々を送りたい。これからも宜しくお願いします」
澄川 ○○「明るく 元気に 遅く をモットーに 1年1年を着実に生きていきたい。」
前澤 ○○「9期の皆さん。2年間ありがとうございました。感謝、感謝です。私は質実剛健をモットーにしております」

6 班

- 内田 ○○「家族の健康と理解でシニア大学に通えました。感謝しています」
工藤 ○○「有意義な二年間でした。役員さんにはお世話になりました」
佐々木 ○○「一期一会。社会が開けました」
田村 ○○「人と会い、友と集いて佳き二年間。この喜びを永久にと願う」
増田 ○○「良き出会いができて新鮮でした」
渡邊 ○○「学び遊びを共にする友。楽しい二年間でした」

7 班

- 熊倉 ○○「素晴らしい人との出会いに感謝！！これからもよろしくお願い致します」
渋谷 ○○「とても楽しく過ごすことが出来ました。これからもよろしくお願い致します」
内藤 ○○「盛春！年を重ねて磨きをかけて、人生にプラチナの輝きを目指し皆さんと歩いていきます」
三品 ○○「みなさん私をみかけたら声をかけてくださいね。これからもずーとよろしく」
蕪木 ○○「あつという間の2年間素晴らしい出会いに感謝。会報ありがとう。絆を大切に」
牧野 ○○「もっと早く知己に慣れていたらと思っております。今後共宜しくお願い致します」
杉山 ○○「健康第一」でがんばりましょう！よろしくお願い致します。

不安と期待を持って望んだシニア岩槻校もあつという間の二年間だったように思う。講義はもとより、課外講座、音楽、文化祭やクラブ活動などと大変だったこともあったが、素晴らしい仲間恵まれて沢山の楽しい思い出を残せてよかった。それに対する災害や被害の少ない埼玉に住み、シニア大学に入り大勢の素晴らしい方々に巡り会え、私にとって幸運そのもの。いい時代に生まれたことに感謝している。

今年から9期生は独自の活動になる。ネットに強い方、話術のある方、話を聞いて理解してくださる方など、頼りがいのある素晴らしい方々ばかりで今後も楽しみです。私事になりますが仕事や子供からも離れ、これから自分の時間を大切に、と思っていたところ、友達から月に1回だからとか年に5～6回だからと言われ、それくらいなら出来るだろうと参加し始め、気がつけば1日に3回出かけることもしばしば、大切な会合にぶつかるようになり迷惑をかけたりと、苦勞もありました。

暮れの三笑亭笑三さんの話の中で病気の大半は「ストレス」とか。又、寺の住職さんの話では人間は身体と心でできているとか。「忙しい」とは、心を亡くすと書く。忙しいことは決して良いことではないと悟った。心にも身体にも余裕を持って過ごせる様にしたいです。皆様には本当にお世話になり、楽しませていただきありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

編集後記

会報第10号の編集を終えるにあたって

2班 瀧田 ○○

2年前、シニア大学がスタートした時、私が所属しておりましたある奉仕団体で毎週例会等の内容を認めた週報というものを発行しておりました。私もその発行に携わっておりました関係で、毎月1回の発行でしたら可能と考え、こうしたものが有っても無駄ではないと考え、理事会の許可を頂いて自費出版させていただきました。当然予算が配分された後のことでしたので、勝手に私の楽しみでスタートさせていただきました。

最初はその月の講義の内容を中心に、当時の羽広会長の「会長挨拶」というトップ記事をメインに主に報告事項を掲載させていただきましたが、私の主旨である「学生による学生のための会報」という目的を具現化するためには、何が何でも学生の皆さんの投稿で編集する事が必要であるとの考えで、順次皆様に投稿をお願いさせていただきました。

お陰さまで皆さんから快くご協力を頂戴し、私の考え通り発行することが出来ました。最初はモノクロも考えましたが、カラーと比較すると雲泥の差があり、折角お渡しするのであれば費用は可なり掛かりますが、より見映えのある方が喜んで頂けると思って思い切ってカラーで印刷しました。

最初は、一年間自費出版をしてピリオッドを打とうと考えておりましたが、思いがけなく、卒業懇親会の席上皆様から花束を頂戴した関係上、行き係とでも申しませうか、皆様のご要望に添って再度挑戦する事にさせていただきました。会計さんのご配慮で予算も計上していただき今日まで毎月発行させていただきました。

2年目は紙面を皆様の投稿で作成すべく、毎月班ごとに紙面の作成をお願いしましたところ、60名の皆さんにおかれましては素晴らしい文筆力の持ち主ばかりで毎回敬服させられるばかりでした。お陰さまで毎月楽しく会報をお届けできることになり感謝・感謝でした。

2年間に亘り会報を愛読して頂き心から御礼申し上げます。私が一番幸せに感じたことは、ある方から「○○号が手元に無いので印刷してください」と言われたことでした。会報なんて粗大ごみでして、お家にお帰りになればゴミ箱へ直行くらいにしか考えていなかった私をして、制作者冥利につくお言葉でした。感激の涙でした。

私事ですが昨年喜寿となりましたが、何とか人並みに大病もせず今日に至っております。私の興味は世界の故事・名言を紐解くことでして、色々な書物から古来の偉人の言葉に親しむことであります。機会があれば皆さんとそうしたものを御一緒に考えてみることも楽しみにしております。アメリカの詩人でサミュエル・ウルマンという偉人が残した言葉を皆様にお贈りして、私のご挨拶とさせていただきます。読んで下さった皆様に感謝。